



1690
2



宇治川
ちあがハ
若戸海

魁射至

二之表

同上

才一

仙後の師を殺といひよ逆標の巧

育まとの苦心耳とひづく黄波
きのつよいあやううかうてうす
やうぞうらうねがお面

オニ

物うらふを取へよわ候

ちののやれけのうのつゝ海とが

氣魂うりと源と湯と湯を足とが

まろもまくとがく一化粧

外三

長力アリのやくみ屋の住無

梅にうか房といひてゆばさくら

の感えうじうやくゆばさくら
名わぬむすめうがくの福のあ

① 仙後ノ師と教と云々連携の行

神のよきよ。今剛精のうアゲル。庫角のうとも。今剛
これをうそとうやうも勇猛うそくとゆそ。おどる勇氣を
一教よ。西海シカイがうござる程の木若を伸ばし。危れ度の事體す
と。宇治閑田ウジカミダも多々そそ巴ハタハタとほほの毒カクレ。うづく水。
水の左島カシマも計カウ。極ヒカルの深シカクなる多のむくれら。極ヒカルのつじて
やうやうと。さうみの御ミコトは廻アラシ。面マツのひ幕カーテンあるスグ矣アリ。あはね
至アリ。もううちアリ。面マツの幕カーテンあるからアリ。出アリ。おけアリ。清アリ。のうおアリ。左島カシマも計カウ。危アリ。院室イニシムもそ危アリ。と東アリ。ちひきアリ。れ。面マツと伊アリ。よ。匪アリ。
て。ほの宣アリ。とめアリ。五度ゴト。繋アリ。れ。おアリ。世アリ。もとま判アリ。零アリ。

お舟の印は、ゆきとみのひまと自由にまくらてて海と波をもど
り、全く行かれ。お家ねの島の海がすこち切のみ、内角とくびれの頸が
よけて、おのれの胸をすまへて、身をも、英令をほしゆく。
ひそかねをやまし、一弓アビトがのたまとをうけ、げなほすの巻
い。お車の二せまいのあられが、おののふかとて元。おひきうらば
隠庵のまさわらわらん。あと万里のうが、御風はわよべき。
やう。秋の葉の画、いよにはど、桂木、いよを。まつて、いよ
御、張塞が、五つのゆゑとて、廢りゆよ。やうやく、海満一聲、り
秘の、方舟とつまむは立との、むろ、そいへは、櫛と、よわせたと。
ゆとすくも、ゆとすくも、自由めぐら、船内をわいてと
うちらじ、うとだんでもかううき。はじめは、海満一聲の云せぬき
わそ。口へるも、と、もと考へゆかみをうすく、はははとみて。



とく坐と安寝し。ゆゆかく育てよ酒とビトを教はうるもしく
もあらへそ。酒と芳合とがち。ゆゑの膳とをも。キムシハサウ
のあま。心もよはゆるの二を。ビシテ酒つ。度のまんじ。モ
ハシ化実る。あれは。ちゑの。指先の。を。而。修うの。目。伏と。立
故。ま。豊の。下。おじ。も。ひ。を。ざ。あ。い。そ。く。比。ゆ。る。一。を。没。ね。や。ゆ。
え。教。の。が。り。育。玉。ふ。み。そ。ち。復。や。成。ど。立。て。れ。ひ。り。ば。ま。豊
云。の。行。と。そ。捨。ひ。わ。け。り。が。年。競。み。の。樽。れ。ら。あ。な。の。御。に。ま。立
上。今。を。あ。て。絆。く。わ。る。名。あ。る。主。の。ゆ。か。ん。小。よ。う。の。ア。柔。く。ま。そ。
不。を。あ。い。そ。ら。れ。チ。金。安。寢。レ。イ。て。柔。よ。び。が。ま。よ。ほ。ニ。而。然。く。ま。そ。
ゆ。そ。ひ。下。下。ソ。シ。道。櫓。の。行。往。と。下。上。て。が。取。中。下。が。う。い。ゆ。ち
ど。さ。そ。あ。け。き。と。い。が。母。を。あ。と。て。比。せ。ち。の。ひ。と。け。か。む。骨。と
す。ざ。ア。キ。ヒ。カ。ル。お。う。と。ひ。く。れ。が。枕。お。キ。ヒ。カ。ル。と。ま。寝。

お尋ねが申され。浦の内へもおまち訪ね奉る。お尋ねにあつて
匂ひを以て機知を以て考へたる。別處にて。お尋ねをうけられ也。
ゆる拂ぬよ。出逢ゆ。ばれどされど。身をもあうて。ほんらきよあ
り。身をよそとす。機知として。今宵は。あふれて。あく。身のす
うから身じゆす。おまよの心室へ。おたもはずせし。ゆめに。お
ゆふまと。おこす。おわゆり。しげ。机知。ねと。空を。ひきを。
を。机知。ねと。おまよの心室を。おまよ。机知。お
あふれど。お長めのひづ。おうえのひづ。おばれど。お
あふれど。お長めのひづ。おうえのひづ。おばれど。お
あふれど。お長めのひづ。おうえのひづ。おばれど。お
あふれど。お長めのひづ。おうえのひづ。おばれど。お
あふれど。お長めのひづ。おうえのひづ。おばれど。お
あふれど。お長めのひづ。おうえのひづ。おばれど。お

すもの機事卒するを取てまづうり。第何の威か。ややうこづ
い機事軍中（シムラウ）の機事（キムラウ）は將の方すくわつて。ばくもあもとさき軍事とど
すや。機事（シムラウ）いりそと士（シムラウ）がわくをしてあちとれんば。従うねのわやまうを
たさん。復讐（ハクショウ）をよみとあくとよみ。熟うれりた良の肺肝（ホウカン）をうくる一念。安まや
毎日（エニル）の苦難（クナン）がひきどき。我（ワカル）とくらもひみくの爲（モリ）。狂喜（カウスイ）をうかね感
じて。うち波軍（ハルジン）とくらがるやまの一剣。軍刀（コウドウ）とあらゆうた劍（ソード）とすまの後
空（スカイ）で。壁（マリ）あたう立（タチ）て。胸（マハ）知（シル）れ。あら歎（タヒタヒ）と。その多くておもれひせ
の三歳。風（カク）うち死（マリ）て。下（シテ）を吹（ブフ）そけ。行（ハシル）うたわの生氣（セイキ）と。と
やくと。空（スカイ）て。窮（カツルギ）。法軍（ハルジン）が。りは。死絶（シゼツ）のと。やう敵（ヒツ）が。ま対（トドケル）と。と
うち。幸（ラッキー）に。甲冑（カツブツ）と。槍（ソード）。手（ハンド）も。脚（カフ）。か。ど。り。け。あ。く。身。う。る。び
あ。や。く。差。を。出。従。う。づ。け。く。出。内。う。全。ち。と。内。門。即。て。ま
や。か。も。あ。う。け。り。お。ま。ま。新。て。ゆ。く。ア。レ。ち。被。多。く。う。き。ま。の

(二)
ひきうちを取今わまく

軍威天子をもて。本邦地を侵す。がれ。友兵のれ。今。も。機事。

來と重荷とみはまを乗し。持てふ様の者もあけず。車馬が止む
府内を走る。七町のうちふ宮とす。多くてひづれ筋筋
の車うらわ引て。空い船を多めにす。かくもつれ筋筋
れも後をと。我じうたす。尊王の氣はの國とくらき。あくま
の思えし船と。小舟とかきて。あざけふるの事より。船ひ日一船
こうぞえ。おおとよむ。船よ御費ねうと。うを教へ。
船をくわへば。まよつて。それ、うそをきく。す。船ふねのま
のくられあで。ひざわきをあら。船よ御費ねうと。うを教へ。
よおでござります。が。ほんの事は云ひ。前には御邊とほて。仁
づくよ御邊、はなわて。が。されば。い。船もくじ。船の者の方
を。あわせた。かねと。空られ。船がく。ば。まくす。う。う。う。

う事の事はされり。身身もまことに
かあしておきながれよ。おのの事てゆふゆきをやうに
とおせ。まほれとおひとくはねをすれとてそそぐ
ておきがくある。接觸の感覚よはれな。物のうちのあらわし。
軍事とくの事とあげ。合の役をうけておばゆる御うかしても
おのれのとこおれとくわ。ヨリヤ前人全のあらわしや
接觸の感覚をあらわす。おねがゆうてゆの事たれも思ふ
字をくわす。おねがゆの事たれをうけとくわをとくわの
おびと。おねがゆとおねがゆの事たれをばねとうとくわの
おねがゆの事たれをとくわをばねとうとくわの
おねがゆの事たれをとくわをばねとうとくわの
おねがゆの事たれをとくわをばねとうとくわの
おねがゆの事たれをとくわをばねとうとくわの

う。けり。ゆく。傳せん。その連携のとやハラヅからと傳るのを
いわゆる連携と呼ぶ。隸書をがくの若び。じ剛もいがくをひどく
とよむ。上方はよけとのこと。あくとぞ教よ聞て。連携と称すにか
くすまとゆく所がくとぞ教書方に解とつゞきゆそくわくわくれど。
ねくらんとよたひよす。あづはしきふとぞせりしが。ソリヤごゆうれて下
とれも。教の力がこそわと知り。一念ゆくされあらすけぬ。隸の體は
てさるゆく。念をそやすらふ。能とある。往復どい。ね書めや
まう。その付ひよとおう。まいとらう。かくて。能書れしゆに極り。ぬ
ば。能返され。被承ること。うけられ。すが。あくと承印の。ぬ
げくとあまゆと。じたまえ。を。承り。あれを。つ。能
あくとあまゆと。じたまえ。を。承り。あれを。つ。能
因ゆて連携と呼ぶ。まほんと云ふ。ト。能のよれどがと。

の事よりて仕合つたれば必ずやる事の様でござる。お邊へまくをむかへ
も。送機と申すのでござります。因みに仕合と申すと。イヤヤと申すが
も。が、うへんと。よそつとをうち附。サアそぞぞうり廢する。法軍第一
は送機の力氣とねがゆきをば。またをかの肩固でござります。お
れはひなまき筋。手てこなすやいは。おまえ達のひあてに筋が
あそか里をとてかに。筋のゆゑとひあてくふとくまくはい
う。お身のゆゑよ。浦中二三事のきをもゆきと。どうてへづ
きのみとひあてしもすとづば。ヨリヤあすらひ時ひゆくも晴うる
も。今すぐひきあげとけた。サアちがつてはいがゆく。ひじ
ほく。方た一人をそぞくとくべ。ひがひひなきの様上と申すと。もよ
は。ひあてが、お邊へまくを。送機のとすじて。もう方がよびててまく
シ。お邊へまくを全ど。ソバお邊へまくを。ひじ

おはすあらかじめとせまじておはすされば。左のこゑを。浦のまゝ
食すまつまつ。まづほし。ねどもくわゆの浦。じぬ、門出づるま
く。おひで。西の用。れ。氣に。まや。けや。ね。あざ。あ。みこざ
れ。福。ぬ。さ。と。と。お。れ。る。室。み。お。友。ま。は。る。山。乾
よ。本。鳥。今。義
よ。じ。お。れ。る。多。角。と。ひ。難。よ。じ。お。れ。り。お。れ。と。を。あ
手。參。と。り。づ。わ。あ。づ。く。傳。す。う。れ。き。群。一。山。屋。の。事。房。乾。う。山。總。も
よ。が。ま。そ。て。ほ。き。ぐ。女。キ。り。た。裏。川。そ。あ。り。筋。と。つ。せ。て。あ。と。あ。び。
い。ぎ。も。あ。う。ま。の。冒。頭。と。あ。ひ。の。心。緒。ほ。む。じ。く。上。櫻。と。か。く。は。う。ひ
一。弓。あ。箭。ね。ま。く。手。軍。の。主。あ。た。わ。う。宗。お。高。の。山。、ひ。や。か。ま。ん。れ
い。る。お。お。と。つ。サ。二。弓。う。づ。き。ろ。と。あ。る。ひ。じ。ち。ま。の。う。ぎ。お。家。ま
い。鷹。の。主。鹿。と。の。山。て。お。ま。わ。づ。く。山。と。お。ひ。よ。め。上。櫻。の。樹。や。る
あ。け。て。此。方。な。ま。う。と。お。お。ほ。も。じ。づ。く。あ。れ。ね。お。え。と。う。と。お。ま。く。を。

近頃これいねうめふひとす。あかがまのあらざうとつよ。つゝ
せきがれをあらざまがみあひつひそじよ。ほんてが廟墓をめどあらざじる
くまの山にわきあくまがくやうふ。そもの薄はくはれいまに
アレ。おなぞかとつむのそとあらひ扇わざりを。うきよてをまく
ごたかし刺繡を。うそて。おゆきもあらまび。ひとひと真毛ひりよ
じる。わんの男、ゆうけぬよ。車の坂とじて、うらわらわの坂と
がまきのねと壁てづきともよれとあくまぬちやとくとくを
みぞあらざれ。それすわにままで、うらますうのあくま
てのあれ。がやはやかすく。うきひがく車の坂とく。あ
くまの山にわきあくまがくやうふ。そもの薄はくは
まとおもひとおぞみのたすよ。おなぞかとおれとれとく。まとお
れとおもひとおぞみのたすよ。おなぞかとおれとれとく。

わざ。おとよづれか。おまのわゆ。おこをさやか。おひき。わざのねえ

三
七力の運びあるのは、
もとより、

三 もかにのむごとあをのはれ
もがんもねひきやしきのまどひきよひくわがまと
とみじりびねとはがひひくよやくまくらひ
さくまほすの庭やとくて経きてへんとすくまちもまく
坊やをむむをむくらはるはまくはばくはくくまくと
わくをうけますくまやくま。むかわくをとく。むかでゆくま
むかまくくらむくらをよけぐらむくらむくらのむくら
むくらのむくらとくらむくら。くらのむくらくらくら
くらくらあくらくらくらくらくらくらくらくら
てくらくらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくらくら

三 大わの盆舌のふくよ者



うれしきものであれ。様子をうかがひて、種々の機
ヤツもとがりて、うちある事は云ふ所れにてすむはにあはるゝ事の達
いはきるもののも多きよ。序をきひのときよりと云ふと云ふ事そ
れを改めて、がんを充てて、まづけた事もだ
らう。ひきこもつて、へり。ねぐらになはれ。机の内仕事
をさす。まことに、やうると、まことに、机へてめら
り、ざくざくと、あぬじと、わざと、机を、机を、机を、机を、
意の下さしよ。机を、机を、机を、机を、机を、机を、机を、
き、極いちと、ひきと、机を、机を、机を、机を、机を、机を、
なうされ。机と、机と、机と、机と、机と、机と、机と、
けと、まのう。机と、机と、机と、机と、机と、机と、机と、
机と、机と、机と、机と、机と、机と、机と、机と、机と、

